

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2694000049		
法人名	メディカル・ケア・サービス関西株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)		
所在地	京都府京都市西京区大枝東長町1-68		
自己評価作成日	平成25年11月15日	評価結果市町村受理日	平成26年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2694000049-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成25年12月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

愛の家グループホーム京都洛西では、ご入居者様に自宅に居られた時と同じような環境で過ごしていただき、できることを妨げず、いつまでも行いたいことができるように支援しています。ホーム独自の理念として「介護＝快互」を掲げています。入居者様の生活を支えることを第一に考えた上で、支援する側と支援される側に分けるのではなく、入居者様と職員がお互いに助け合いながら日常を過ごすことでお互いに笑顔になれる、お互いに快い気持ちになれるとの思いを込めています。今年度は昨年よりも自治会との連携を図ることができ、地域の一員として入居者様と様々なイベントに参加したり、防災関係でも協力関係を築くことができました。職員同士も大変仲が良く、助け合いながら入居者様の事を第一に考え、入居者様の喜びを職員自身の喜びとして生活支援をおこなっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は「介護＝快互」と理念に謳い、職員と利用者が互いに協力し合うことで快く暮らせるようにという思いを込め日々のケアにあたっています。常に理念に沿ったケアができているかを確認しながら意識づけを行っています。利用者自身も前向きで食事やおやつ作り、食器洗い、居室の掃除など積極的に行っています。職員は地域との関わりを増やしたいという昨年度からの課題を様々な角度から検討し自治会の会合や清掃活動等に参加するとともに事業所の夏祭りには地域の方に参加してもらうなど少しずつ関わりを増やしホームへの理解が深まり、ボランティアの来訪に繋がるなど地域との良好な関係を築いています。職員のチームワークは良好で前向きな姿勢で話し合いを重ね、利用者が気持ちよく暮らせるよう日々取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)	毎朝、朝礼にてクレド(運営理念)を唱和して理念を踏まえながら日々入居者様のケアに取り組んでおります。	ホーム理念は職員間で話し合い、利用者が日々快適に過ごせるようにという思いを込め作成しています。事務所に掲示し、法人理念を毎朝唱和するなど職員への浸透促し、日々のケアの中で利用者が喜びを感じているか確認する中で、職員が理念を意識した実践に繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会しており、会合にも参加させていただき交流を図り、自治会の掃除などにも入居者様と参加している。ホームのイベントにも地域の方々に参加していただいたり、スーパーへ買物に行くなど、地域と触れ合う場を設けている。	管理者は常に地域との関わりを深めたいと考え、自治会に加入するとともに地域会合に出席するよう努め、清掃活動には利用者と一緒に参加しています。夏祭りなどのホームの行事には地域の方や子どもたちの参加を得て行われ、近隣の方の園芸ボランティアや大学生のボランティア来訪もあり地域との良好な関係が築かれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生の見学受け入れを積極的におこなったり、見学に来られた方にも、ホームの説明と共に認知症の理解や接し方についても話をさせてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	社会福祉協議会・自治会長・地域包括・他グループホームなど、様々な方にご出席いただき、ホームでの取り組みや相談事などと話し合い、サービス向上につなげています。	会議は家族や自治会長、民生児童委員、地域包括支援センター職員などの参加を得て隔月に開催しています。ホームからの行事や現状報告の後、意見交換を行い、社会福祉協議会のイベントなどの情報をもらい利用者と共に参加するなど出された意見を行事や運営等に反映させるなど有意義な会議となっています。会議録は全家族に送付し、内容を伝えています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議後は必ず、議事録を洛西支所に届けに行き、疑問点等は直接出向いたり、電話で相談しアドバイスなどをもらっている。	運営推進会議の議事録を届けたり、何かあれば直接出向いたり電話で相談や情報提供を行っています。行政主催の研修や会議の情報をもらい参加するとともに連携を図るよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束においては研修をおこなっており、全スタッフが理解し取り組んでいる。	職員は事業所内研修を受講し、参加出来なかった職員には伝達を行い周知に努めています。言葉の制止等不適切な言動があれば管理者やリーダーが注意を促すよう心がけています。構造上玄関は中から開かないようになっていますが、1、2階の上下移動は自由にでき、出かけた利用には職員が付き添って出かけたたり、気分転換を図るなど閉塞感のないケアに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修にて高齢者虐待防止関連法について研修をしたり、入居者様との関わりの中で日々スタッフ同士で注意しながら身体拘束防止に努めている。		

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の中に成年後見制度を受けておられる方がおられ、運営推進会議にも司法書士の方が参加してくださっており、内容についても学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書を1字1句読み合わせ、その都度疑問があれば質問に答えるようにして、ご家族様の理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度、ご家族様アンケートを取っており、ご要望やご意見に対し取り組みを行い、運営に反映させている。	家族の面会時や電話等で意見や要望を聞き、職員間で話し合い要望に沿うよう努めています。日頃の暮らしぶりを知りたいという家族からの意見を受け、利用者の様子や食事、水分量等も合わせて家族に送付するなど出された意見は検討し改善に向けて取り組んでいます。また、年に1度アンケートによる満足度調査を行い、家族にも結果報告をしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行うカンファレンスにて意見や提案を聞いたり個別に話す機会を設け、提案などの実践に取り組んでいる。	管理者は、定期的に行われるカンファレンスや日々の業務の中で職員の声を聞くように心がけています。利用者の思いを汲み取り外出企画を立てるなど、挙げられた提案等は職員間でも検討し個別の外出を実施するなどサービス等に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、職員アンケートや表彰制度・様々なコンテストなどを行い、職員のモチベーションアップにつなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年、研修計画を立てて関西のホームの中で他職員と一緒に研修をおこなったり、外部研修もすすめている。様々な資格支援もおこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所への挨拶まわり・イベントなどの交流を通じてネットワークを構築したり、運営推進会議への参加もいただいている。まさかつとの会への定期参加も検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント時、不安や希望などをできるだけ聞かせていただき、スタッフとケアについて話し合いを行い、信頼関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時、入居者様と共にご家族様の不安や希望をできるだけ聞かせていただき、信頼関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様と入居前にしっかりと話し合いを行い、入居者様・ご家族様が「こうしたい・こうして欲しい」と思っておられることに対して、その人の為にならないと判断した場合は相談し他サービスについても話し合いを行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることはできるだけおこなっていただき、できない所だけをお手伝いさせていただくようにしている。その他、様々な事を教えていただいたりしながら双方に支えあう関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何か困りごとや助けていただきたいこと等あれば、ご家族様に連絡し相談相談させていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様との話の中で出てきた馴染みの人の話をご家族様に伝えて支援していただいたり、住んでおられた場所に散歩やドライブに行ったりしている。	友人の来訪があり、ゆっくり過ごしてもらえるよう配慮しています。馴染みの美容院からの訪問や住んでいた家を見に行くなど利用者の思い出を大切にしています。また、年賀状のやりとりが継続できるよう投函などの支援も行い、日々の会話の中から聞き取った利用者の行きたい場所を家族に伝え、出かけるまでの準備を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士で助け合ったり(家事など)状況に応じて入居者様同士が関わりあえるよう支援している。		

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族様と連絡を取り、ホームのイベントなどに参加していただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時にホーム独自のアセスメントを用い、本人の意向の把握に努めており、センター方式の一部も使用している。	初回面接で利用者や家族、サービス事業所等から身体状況や生活歴、意向等を聞きアセスメントシートに記録しています。日々の会話の中で聞いた意向や様子を見て汲み取った思いを記載すると共に、職員間で話し合い、本人の意向に沿ったケアになるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	最初にアセスメントを取りますが、生活している中で気付いたこと・ご本人様が語ったことやご家族様に伺ったことなどを追記し把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を送っている中で、常に状態観察を行い、把握に努め申し送りも行い、職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、担当ごとにモニタリングを行い、サービス担当者会議を開き、介護計画を作成している。	利用者、家族から聞き取ったアセスメントを基に介護計画を作成しています。3ヶ月毎に職員の意見を聞きながらモニタリングと評価を行い、サービス担当者会議を開催し往診時の医師の情報や家族の意向等も反映し見直しに繋がっています。再アセスメントは6ヶ月毎に行い、状況に即した介護計画となるよう努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護計画を作成し、申し送りを詳細に行い、情報共有しながら実践したり、介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人が望むことをできるだけ支援できるよう取り組んでいる。状況に応じてご家族様にも協力をお願いしている。		

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の会合に出席したことで、地域の様々な取り組みに参加することができている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回、往診医に来て頂いており、緊急時も24時間医師の指示を受けることができている。週1回看護師が勤務し、受診介助や医療連携をおこなっている。	入居時にかかりつけ医の変更ができることを説明し、精神科、整形外科などの専門医は今までのかかりつけ医を継続していますが、ほとんどの利用者が24時間連絡可能な協力医に変更しています。受診は家族が同行し受診前に利用者の状況説明を行ったり、受診結果の報告を受け情報を共有しています。緊急時は看護師と連携し受診に繋げ、歯科は週に1度希望者への往診があります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携記録に看護師が情報や往診内容を記録し、スタッフも気付いたことを記入したり口頭で伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際に病院関係者との情報交換や相談に努めている。緊急時は往診医が病院への働きかけもしてくださっている。毎月病院への挨拶まわりもおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様との契約の段階で、重度化や終末期に向けた方針の話し合いをおこなっている。ホームとして看取りに向けた話し合いをおこなっている。	契約時に終末期の方針について説明し、家族の意思確認を行っています。医療行為がなければ看取りを行うことは可能と考えており、医師とのルール決めや職員の体制づくりを課題として運営推進会議などで相談しています。また、看取りに関する職員研修の必要性も考え、今後の課題としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法やAED講習を受講済みであり、新人職員に対しても、消防署の救急講習受講を促している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練にて訓練を受けている。全職員が緊急時の避難場所も把握している。災害時の自治会との連携も取れている。	年2回消防署立ち合いの下、昼夜想定で通報、避難誘導、初期消火の訓練を行っています。運営推進会議で訓練の案内と内容を報告しており、自治会とは何かあれば協力を要請できる体制にありますが、地域の方々の参加への働きかけには至っていません。地域の防災訓練には職員が利用者と共に参加しています。	災害時の避難体制を強化するためにも近隣の方に参加してもらえるよう働きかけたいかと思いますが。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から職員間で注意しあいながら、人権の尊重や自尊心に配慮した言葉掛けをおこなっている。	事業所は新人研修や事業所内の全体研修でプライバシー等について学ぶ機会を持ち、職員の理解に努めています。上から目線にならないように、自分が言われて嫌なことは言わないように、排泄時の声かけ等についてはプライバシーを損ねないように留意するなど、日々の業務の中での対応に配慮しています。不適切な言動が見られた場合はお互いに注意を促しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアの中で、入居者様ご本人がおこないたい事を実施できるように、随時声掛けなどの働きかけをおこなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが居室で過ごしたり、リビングでテレビを見たり、歌を唄ったり、家事をしたりと、ご本人のペースで過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時、「今日はどの服にしましょうか？」と伺い選んでいただいています。装飾品のお好きな方は毎日身に付けておられます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、食事の材料を切ったり、皮を剥いたり、お盆の用意や後片付けなどもして下さっています。おやつ作りなども一緒におこなっています。	献立は法人で作られています。利用者の好みを取り入れアレンジすることもあり、ユニット毎に交代で食事を作っています。野菜の皮剥きや食材を切るなど利用者の出来ることに携わってもらい、食事準備を行っています。月2回の外食や誕生会などに出前を取ったり、天気の良い日は玄関前の広場で食事を摂るなど、食事が楽しみなものとなるよう工夫をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量などを記録に残し、体重やその方の状態に応じて食事量などを調整し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアをおこなってもらえるよう声掛けを行い、実施していただいている。週1回の歯科往診にて口腔状態も診ていただいている。		

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、表情や仕草等を観察し自尊心に配慮しながら声掛けおこない、トイレ誘導を行うことで自立に向けた支援をおこなっている。	できるだけトイレで排泄してもらうように個々のタイミングに合わせてトイレ誘導を行っています。トイレでの排泄支援を継続することで、失敗も減少し紙パンツから布の下着に移行し皮膚の状態が改善するなどの事例もあり、利用者が快適に暮らせるよう自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルトを摂取していただいたり、入居者様によっては食後の運動や、その入居者様にとって便秘に効くと思っておられる物を提供したりと個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は午後入浴であるが、個々の入浴希望に合わせて柔軟に対応している。季節によっては、菖蒲湯やゆず湯等も楽しんでいただいている。	毎日入浴の準備ができており週3回を目途に入ってもらえるよう支援しています。希望があれば毎日の入浴や時間は希望に合わせて対応しています。夜間の入浴も希望があった場合は、体制を検討していきたいと考えています。入浴剤を使用したり菖蒲や柚子などの季節湯も楽しみ、シャンプー、リンス等も好みのものを使用するなど個々に合わせた心地よい入浴になるよう配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様に合わせて過ごしていただいております。居室でテレビを見たり、お昼寝をしたり、リビングで休まれたり、夜眠りにくい方にはコーヒー等の刺激のある飲物は午後からは控えるようにしています。就寝前にはホットドリンクを飲んでいただいたり安眠にもつなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容を常に把握しており、入居者様の状態を見ながら往診医・看護師と相談しながら服薬支援に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が得意だったり、大好きだった人には料理や掃除などをしていただいたり、ドライブが好きな人にはドライブに行っていたり、食事に関しても昔から好きだった物を個別で楽しんでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出はできるだけご本人の希望に添えるよう支援しています。ドライブや買物など日常的に外出しています。ホームとしてすぐに行けない場所などは、ご家族様に連絡して相談させていただいています。	日々の散歩やドライブなど希望に応じて出かけています。桜やコスモスなどの花見、紅葉狩り、初詣など季節に応じた外出等、毎月外出できるよう支援し、家族にも声かけを行っています。時にはホームの玄関先で食事をしたり、外気浴なども取り入れています。	

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方やお金を持っていないと不安とおっしゃられる方については、ご本人で管理されています。(ご家族様了承)買物に行くと自ら出されることもあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のご希望があれば、掛けていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節に合わせて壁紙を張り替え季節感を出している。リビングには加湿器を抗菌作用のあるソリューションウォーターを設置しています。テレビの音量にも気をつけ、定期的に窓を開け換気にも気を使っています。	季節毎に作られた貼り絵やフェルト作品、絵画などが壁に貼られ温かい雰囲気があります。コーナーにはベンチを置き自由に寛いで過ごせるよう居場所作りに配慮し、空気清浄機や加湿器を設置するとともに毎日換気を行い、快適に過ごせるよう心がけています。掃除は毎日行い、清潔保持にも努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは1人になれる場所が作りにくいですが、気の合った入居者様同士で過ごされることが多くあります。廊下の奥にはソファを設置しており、1人になれる空間となっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使い慣れた物や大切にされていた物(お仏壇やアルバムなど)を持ち込んでいただいております。自宅と同じ様な環境で暮らしていただけるようにしております。	入居時に使い慣れたものを持ってきてもらうよう伝え、冷蔵庫やテーブル、いす、棚、仏壇などを持ち込まれています。自宅での配置や利用者の安全面も考慮し家族と相談しながら設え、部屋は洋室でベッドを置いていますが希望があれば布団を敷いて休むことも可能です。家族の写真や自身のデザイン画などを飾り、落ち着いて過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力で歩行できて、その日の状態を判断できる方は状態に合わせて杖を持ったり、手すりを持ったりして歩行されています。判断が難しい方に関しては、スタッフが日々の状態を観察しながら、その都度声掛けを行い、自立した生活を送れるよう支援しています。		